

■都市課題

- (1)多極分散型都市形態
- (2)昨今の公共交通離れに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による利用減
- (3)交通事業者の運転手不足

■解決方策

- ①交通手段の役割の明確化と最適高度化された移動の検証
- ②遊休車両と旅館のドライバー活用による担い手不足の効果検証
- ③MaaS・その他基盤との連携による利便性の向上

■KPI

AIオンデマンドバス利用者数：
約23,400人/年（代替利用数の1.5倍）

■実証実験の概要・目的

市域の広い地方では、公共交通の効率化と担い手不足が喫緊の課題。AIを活用して広域市域でも対応可能で効率最適な車両配分の実現と、不使用の地域資源の活用による増車の2軸で同時に解決。

■実証実験の内容

●交通手段の役割の明確化と最適高度化された移動の検証

乗合タクシー「のりあい号」にAIオンデマンドシステムを導入し、乗降可能ポイントを増やし、市内を4か所のエリアに分けて運行していたバスルートの廃止、時刻表撤廃を行う。これにより、AI技術による最適高度化による乗合率や利用者の数や、利便性向上の検証を行う。

■検証方法

- ・データによる乗合率や利用者数の推移
- ・利用者へのアンケート
- ・従来ののりあい号との比較



●遊休車両の活用による柔軟な運行と担い手不足の効果検証

乗合タクシー「のりあい号」の車両に、自家用有償旅客運送として旅館の運転手と遊休車両を活用する。

■検証方法

- ・運行事業者へのヒアリング
- ・利用者へのアンケート



●MaaS・その他基盤との連携による利便性の向上

加賀MaaSアプリ「Noluday」と加賀市乗合タクシー「のりあい号」アプリの連携をはかる。

AIオンデマンドアプリの一部に「NoluDay」のリンクを表示させ、AIオンデマンドアプリから「NoluDay」に飛ぶことができるようにし、また住民に配布するAIオンデマンドの説明チラシに「NoluDay」の案内も掲載。



■実証実験で得られた成果・知見

●「最適高度化された移動の検証」について

AI技術による最適高度化により、乗合率が20.9%、最大相乗り人数8人、利用者数227人となった。また、従来は、医療機関は降車地点としては利用数の上位に多くある一方で、乗車地点としてはそれほど上位にはなかったが、オンデマンド化したことで、医療機関が乗車地点としても上位にくい込んできていることから、帰りに使いにくかったのりあい号が帰りの移動手段としても機能しうることが実証できた。

●「遊休車両の活用による柔軟な運行と担い手不足の効果検証」について

旅館のチェックアウトからチェックインまでの10時から15時までの間、車両を借りることができ、自家用有償旅客運送の車両として運行した。

●「MaaS・その他基盤との連携による利便性の向上」について

加賀MaaSアプリ「Noluday」と加賀市乗合タクシー「のりあい号」アプリの連携をおこなった。

■今後の予定

今後は、待ち時間や配車不成立の発生を踏まえ、曜日や時間による利用者数の推移などを精査し、実装時の車両台数を決める。
AIオンデマンドのさらなる利便性向上と加賀市版ライドシェアの活用を検討していく。